

第64回 大阪市廃棄物減量等推進審議会 資料

令和元年 9 月10日

大阪市環境局

目次

報告事項

- | | |
|----------------|---------|
| 1. 平成30年度ごみ処理量 | P 3 – 4 |
| 2. ごみ減量の進捗状況 | P 5 – 8 |

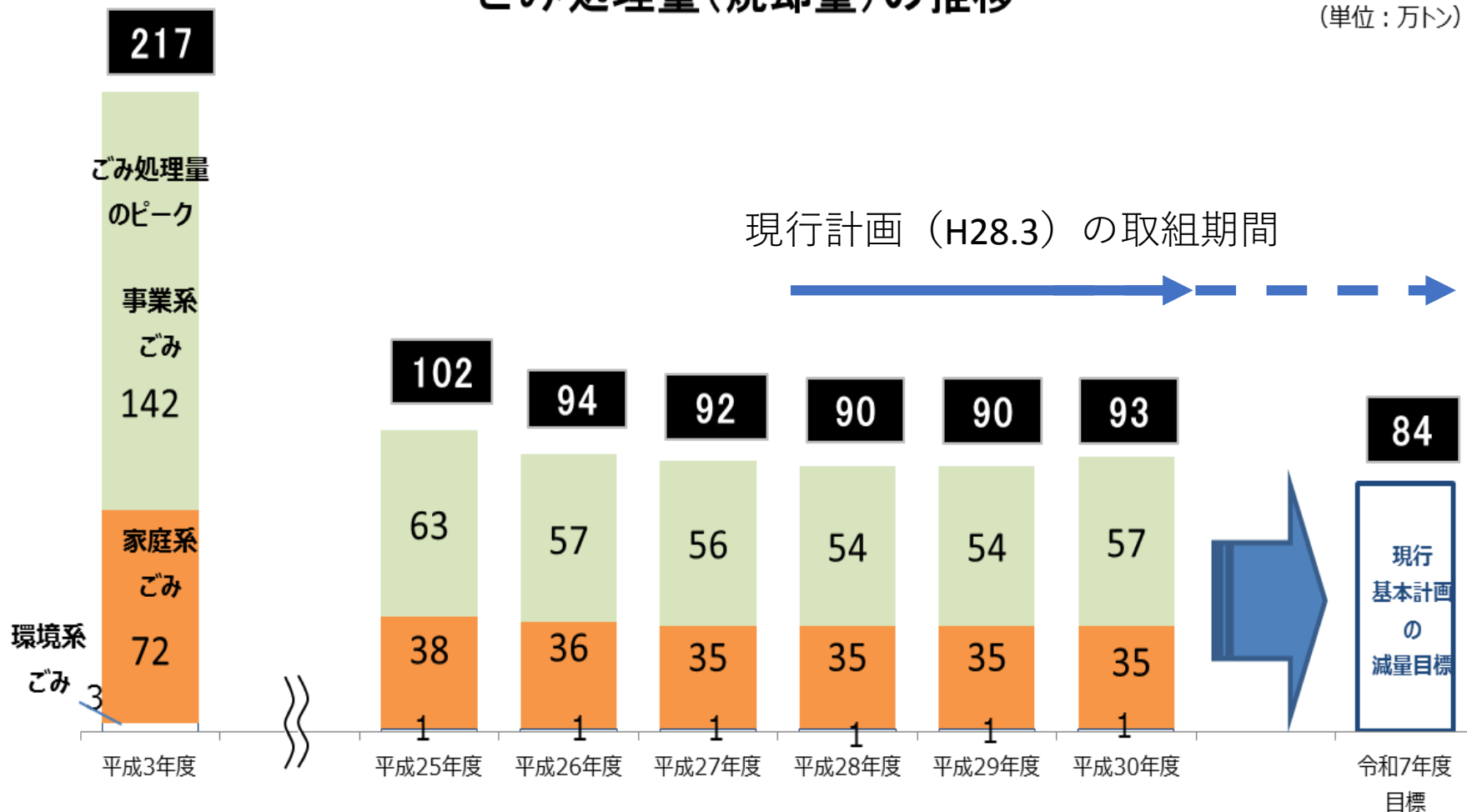
中間見直しに係る検討事項

- | | |
|----------------------------|-----------|
| 3. 廃棄物行政を取り巻く状況変化と今後の方針 | P 9 |
| 4. 減量目標の考え方 | P 10 |
| 5. S D G s を意識した施策例 | P 11 – 12 |
| 6. 食品ロス対策の施策目標(SDGs関連) | P 13 |
| 7. プラスチックごみ対策の施策目標(SDGs関連) | P 14 |
| 8. 参考資料 | P 15 – 18 |

1 平成30年度ごみ処理量（推移）

ごみ処理量(焼却量)の推移

(単位：万トン)



1 平成30年度ごみ処理量（ごみ収集量・処理量実績）

ごみ収集量・搬入量

（単位：トン）

区 分	①30年度実績
普通ごみ	332,542
資源ごみ（拠点回収含む）	24,443
容器包装プラスチック	19,026
古紙・衣類	19,917
粗大ごみ	16,096
家庭系ごみ 計	412,024
業者収集（資源・容プラ含む）	559,998
一般搬入等	12,956
事業系ごみ 計	572,954
環境系ごみ	8,358
計	993,336

ごみ処理量（焼却処理量）

（単位：トン）

区 分	①30年度実績
家庭系ごみ	353,959
事業系ごみ	571,431
環境系ごみ	8,358
計	933,748

【参 考】

（単位：トン）

②30年度計画	①－②	③29年度実績	①－③
325,962	6,580	330,775	1,767
25,087	▲ 644	24,530	▲ 87
20,434	▲ 1,408	19,480	▲ 454
20,619	▲ 702	18,174	1,743
14,510	1,586	14,069	2,027
406,612	5,412	407,028	4,996
532,722	27,276	538,470	21,528
8,680	4,276	9,933	3,023
541,402	31,552	548,403	24,551
4,722	3,636	4,545	3,813
952,736	40,600	959,976	33,360

【参 考】

（単位：トン）

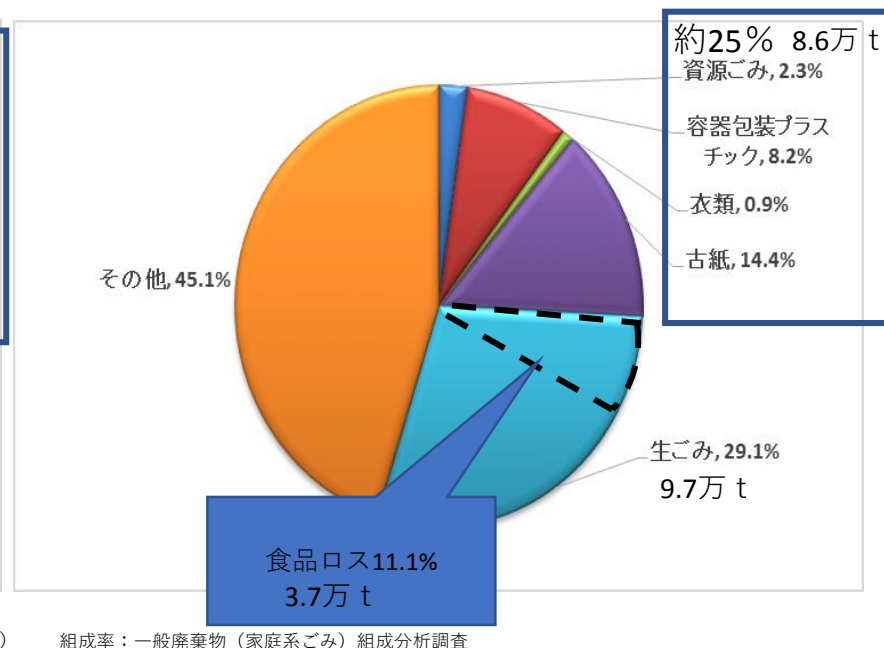
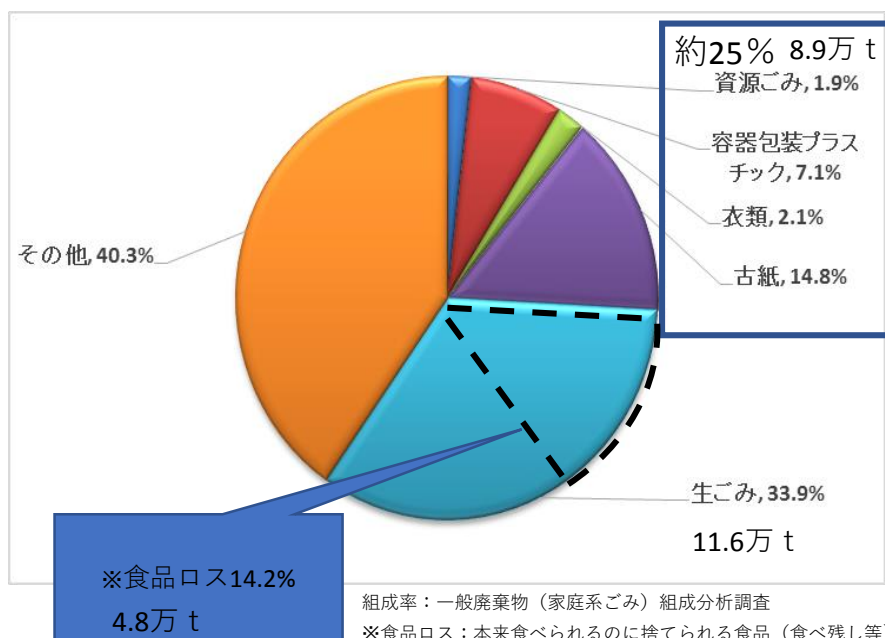
②30年度計画	①－②	③29年度実績	①－③
345,431	8,528	350,782	3,177
540,052	31,379	547,040	24,391
4,722	3,636	4,545	3,813
890,205	43,543	902,367	31,381

2 ごみ減量の進捗状況（家庭系ごみ）

普通ごみの組成

現行計画策定時の組成率と推計量（H26）
推計総量34.2万 t

組成率と推計量（H30）
推計総量33.3万 t



○資源化可能物の組成率が約25%で変動していない。

→ 排出時における市民一人ひとりの実際の分別行動につながるような具体的な啓発（わかりやすい啓発）やプラスチックごみ削減に向けた取組が必要

○生ごみ（食品ロス）は減少している。

生ごみ33.9%(11.6万 t) → 29.1%(9.7万 t) 食品ロス14.2% (4.8万 t) → 11.1% (3.7万 t)

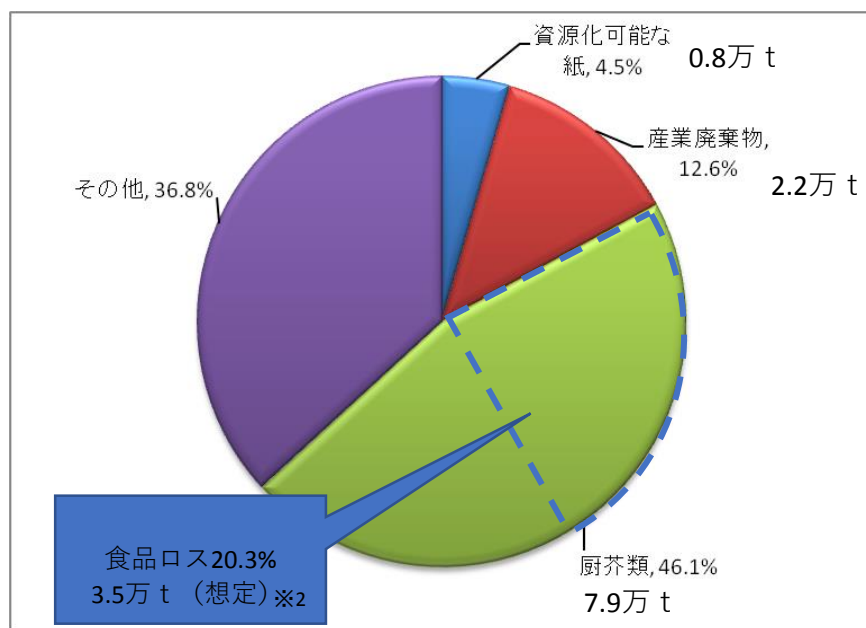
→ さらなる削減に向けた取組が必要。

2 ごみ減量の進捗状況（事業系ごみ 大規模事業所※）

※大規模事業所：市条例等で定める多量の事業系廃棄物を生ずる建築物（延床面積等により規定）

現行計画想定組成率とのかい離

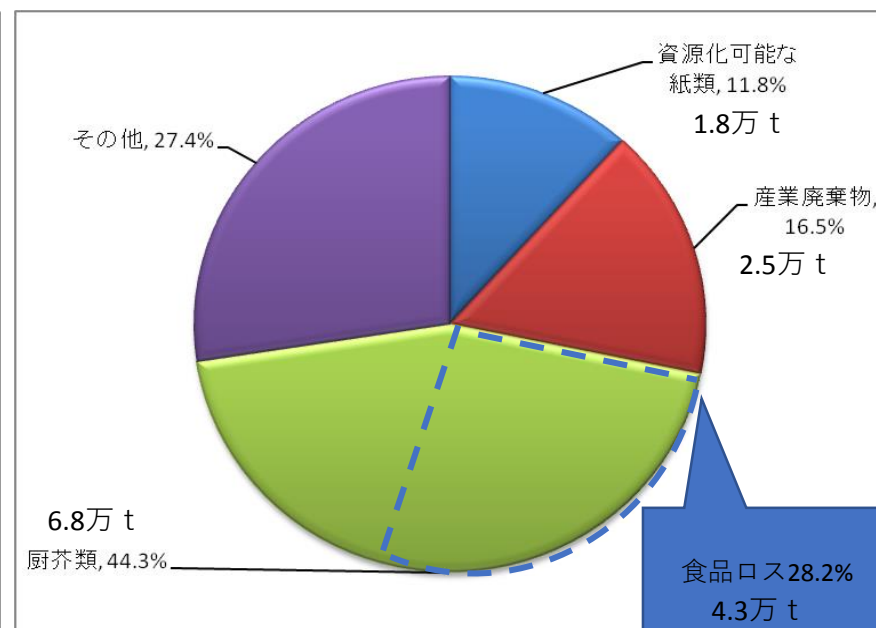
現行計画の想定※₁組成率と推計（H26）
推計総量17.2万 t



※₁事業系廃棄物の減量推進及び適正処理に関する計画書を基に推計

※₂ 他都市のH25組成調査を準用

組成率と推計量（H30）
推計総量15.4万 t



組成率：事業系一般廃棄物排出実態調査を基に推計

- 本市組成分析結果により、焼却すべきでない、資源化可能な紙類と産業廃棄物や食品ロスの存在が判明。
→ 分別排出の推進に向けたさらなる取組が必要。

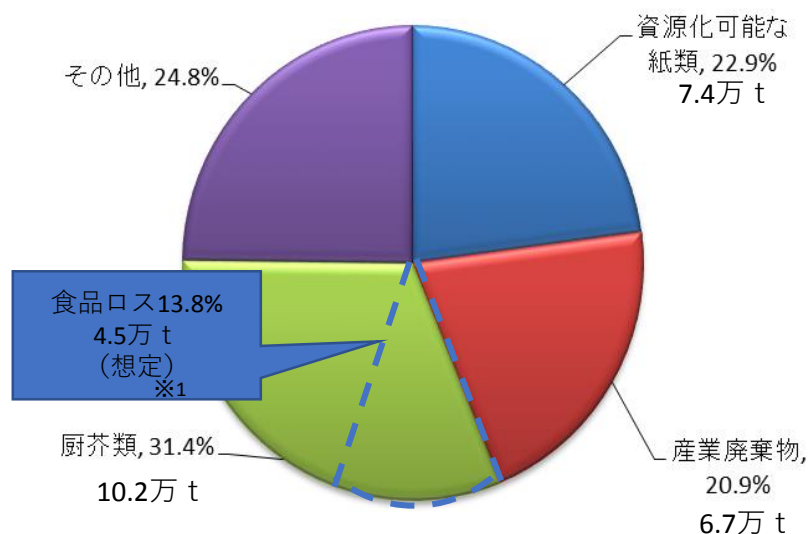
2 ごみ減量の進捗状況（事業系ごみ 小規模事業所※）

※小規模事業所：大規模事業所以外の事業所

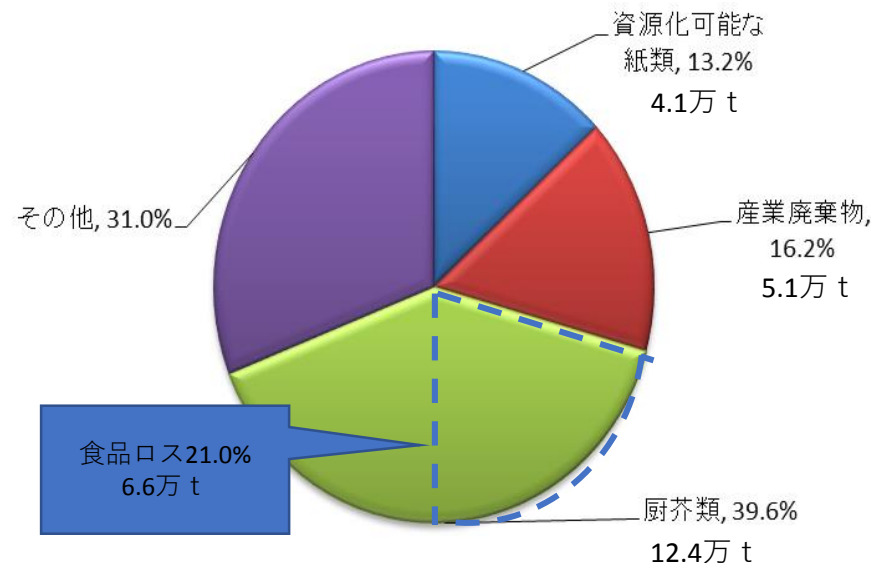
資源化ルートへの誘導と食品ロス対策

現行計画策定時の組成率と推計量
(H26) 推計総量32.3万 t

組成率と推計量（H30）
推計総量31.3万 t



組成率：事業系一般廃棄物排出実態調査 ※1他都市のH25組成調査を準用



組成率：事業系一般廃棄物排出実態調査

○資源化可能な紙類や産業廃棄物の減量が進捗
→ さらなる削減に向けた取組が必要。

○食品ロスが一定程度存在
→ 減量に向けた取組が必要

2 ごみ減量の進捗状況（原単位）

・ごみ処理原単位

	平成30年度	
	家庭系ごみ排出量	家庭系ごみ処理量
現計画想定量 (H28.3)	463(g/日・人)	352(g/日・人)
実績量	456(g/日・人)	356(g/日・人)

ひとり一日あたりの量（原単位）では、リデュースが進んでいる一方、リサイクルの推進が必要

（参考）人口と現計画（H28.3）の乖離

・人口の推移

		H 26年度	H 28年度	H 29年度	H 30年度	R 1 年度	単位（人）
人	□ ※1	2,686,246	2,702,033	2,713,157	2,725,006	2,739,622 ※2	R 7 年度 2,729,622 ※3
現計画策定時(H28.3) 想 定 人 口		2,686,246	2,673,471	2,664,064	2,654,657	2,645,250	2,569,004
乖 離		0	28,562	49,093	70,349	94,372	168,618

※1 26～H30 各年10月1日大阪市都市計画局公表推計人口 ※2 同左令和元年7月1日推計人口を基に前年度同時期の増加数から10月1日時点推計、※3 大阪市人口ビジョン(H28.3)から推計

人口の推移は当初想定と逆に増加傾向

人口増の影響量（試算）
 $H30 \quad H30(\text{現計画})\text{の原単位}352(\text{g/日}\cdot\text{人}) \times 70,349\text{人} \times 365\text{日} \div 0.9\text{万 t の増要因}$
 $R7 \quad R7(\text{現計画})\text{の原単位}333(\text{g/日}\cdot\text{人}) \times 168,618\text{人} \times 365\text{日} \div 2.0\text{万 t の増要因}$

3 廃棄物行政を取り巻く状況変化と今後の方針

国の動き

- ・ 持続可能な開発目標（SDGs）・パリ協定の採択
- ・ 大阪ブルー・オーシャン・ビジョン
- ・ プラスチック資源循環戦略
- ・ 食品ロスの削減の推進に関する法律 など

市の動き

- ・ 新たな市環境基本計画（環境審議会へ諮問）
- ・ プラスチックごみゼロ宣言（削減目標の策定）
- ・ 市推計人口の増加 など

+

ごみ減量の進捗状況

方針 1

現行計画の基本方針「2 R 優先、分別排出の徹底、環境配慮」を、引き続き重要な視点と位置付け

方針 2

持続可能な開発目標（SDGs）の理念や目標を踏まえた新たな施策を展開
（例）食品ロス対策
プラスチックごみ対策など

（参考）持続可能な開発目標（SDGs）

2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標。

持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むこととしている。



4 減量目標の考え方

- 令和7年度までにごみ処理量を約84万tまで減量する

	H26年度	H30年度	R7年度	R7－H30
ごみ排出量 ①	103.3	103.5	96.0	▲ 7.5
家庭系ごみ	45.6	45.4	43.9	▲ 1.5
事業系ごみ	57.2	57.3	51.7	▲ 5.6
環境系ごみ	0.5	0.8	0.5	▲ 0.3
資源化量 ②	9.6	10.2	12.3	2.1
家庭系ごみ	9.5	10.0	12.1	2.1
事業系ごみ	0.1	0.2	0.2	0.0
環境系ごみ	0.0	0.0	0.0	0.0
ごみ処理量 ③(①－②)	93.7	93.4	83.7	▲ 9.7
家庭系ごみ	36.1	35.4	31.8	▲ 3.6
事業系ごみ	57.1	57.1	51.5	▲ 5.6
環境系ごみ	0.5	0.8	0.5	▲ 0.3

(単位：万t)

(参考値)

現計画(H28.3) R7年度
95.5
42.7
52.3
0.5
11.6
11.5
0.1
0.0
83.9
31.2
52.2
0.5

(単位：万t)

ごみ排出量 ①		内訳
家庭系ごみ	▲ 1.5	厨芥類(食品ロス)対策▲0.9 大阪エコバッグ運動▲0.6
事業系ごみ	▲ 5.6	大規模事業所対策(資源化可能な紙類 ▲0.5 産業廃棄物 ▲0.2) 小規模事業所対策 (資源化可能な紙類 ▲0.4 産業廃棄物 ▲0.8) 食品ロス ▲2.2(大規模・小規模事業所合算) 一般搬入対策 ▲0.2 災害影響 ▲1.3
環境系ごみ	▲ 0.3	災害影響 ▲0.3
資源化量 ②		内訳
家庭系ごみ	2.1	資源ごみ 0.2 容器包装プラ 0.6 古紙衣類 1.3

(単位：万t)